

令和3年度 秋の公開

## 音楽科学習指導案

指導者 学びの改革支援課 指導主事 荒井 和之 先生  
共同研究者 信州大学学術研究院教育学系 教授 齊藤 忠彦 先生  
日 時 令和3年10月20日(水) 第5校時  
授業学級 3年D組(41名)  
授業会場 音楽室  
題材名 「曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌おう」  
授業者 北澤 嶺美

### I 本校全体の研究

- 1 目指す生徒の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 音楽1
- 2 全校研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 音楽1
- 3 研究の重点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 音楽1
- 4 各教科等での育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ 音楽2

### II 音楽科の研究

- 1 学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 音楽3
- 2 題材の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 音楽3
- 3 題材の評価規準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 音楽3
- 4 音楽科として、全校研究テーマに迫るための仮説・・・・・・・・ 音楽3
- 5 題材展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 音楽3

信州大学教育学部附属長野中学校 音楽科

研究者 北澤 嶺美

# I 本校全体の研究

## 1 目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

## 2 全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方

## 3 研究の重点

- (1) 問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする。(重点1)
- (2) 学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする。(重点2)

昨年度までの成果と課題から、本年度は、目指す生徒の姿を「学びを拓いていく生徒」とし、研究を進めていくこととした。「学びを拓いていく生徒」とは、①「各教科等の資質・能力を身に付けていく生徒」と②「①を踏まえて、身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」と、捉えている。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説の第1章総説には、「これからの時代を生きる生徒は、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である」と示されている。

このような力を育成するためには、中学校において、生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせて、各教科等の資質・能力の育成につなげていくことが求められている。「見方・考え方」そのものは資質・能力に含まれるものではないが、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、各教科等の学習と社会とをつなぐものである。また、本校では、学習の基盤となる資質・能力のうち、「問題発見・解決能力」が、生徒の生涯にわたる学びの基盤となるものと考え、研究の重点1を「問題発見・解決の過程において、各教科等の『見方・考え方』を働かせることができるようにする」と据えた。

各教科等で身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていくことができるようにするためには、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解するなど、生徒が各教科等の学習の有用性を認識していく必要がある。そこで、研究の重点2を「学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする」と据えた。「学んだこと」だけでなく、「学んでいること」を付け加えたのは、単元や題材の学習において、「何のためにこの学習を行っているのか、そこにはどのようなおもしろさや社会とのつながりがあるのか」などを、生徒が自覚することで、学ぶことに興味や関心をもち、粘り強く取り組む中で、自己の学習を振り返って、次につなげるなど、生涯にわたって学び続けることにつながるのではないかと考えたためである。

各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことが「各教科等の本質」であるとするならば、各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくことを「学びの本質」と捉える。そこで、「学びを拓いていく生徒」を育成するために、全校研究テーマを「学びの本質に迫る学習の在り方」と据え、研究を進めていくこととした。

#### 4 各教科等での育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ

各教科等の資質・能力を育成するため、本年度の各教科等の研究テーマを下記のように決め出した。

各教科等	各教科等で育成を目指す資質・能力	各教科等の研究テーマ
国語	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力	文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方
社会	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高める学習の在り方
数学	数学的に考える資質・能力	数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察したりする力を高める学習の在り方
理科	自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力	観察、実験の結果を分析して、解釈する力を高める学習の在り方
音楽	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力	音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方
美術	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力	主題を基に、発想し構想する力を高める学習の在り方
保健体育	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力	運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わおうとする力を高める学習の在り方
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力	(技術分野) 社会や生活課題について多面的に検討し、最適な解決策を考える力を高める学習の在り方 (家庭分野) 生活事象を多角的に捉え、よりよい生活を営むために工夫する力を高める学習の在り方
英語	簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力	事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方
道徳	よりよく生きるための基盤となる道徳性	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むための学習の在り方
総合	よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力	自ら課題を設定する力を高める学習の在り方
特別活動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して身に付ける資質・能力	学校生活をよりよくするための課題を見いだし、解決する力を高める学習の在り方

## II 音楽科の研究

1 学習：曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う学習

2 題材の目標 ※【 】内は、学習指導要領との関連を指している

(1) 知識及び技能【「A表現」(1)歌唱イ(ア)、ウ(ア)】

「帰れソレントへ」の曲想と音楽の構造や、歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「帰れソレントへ」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けることができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等【「A表現」(1)歌唱ア】

「帰れソレントへ」の旋律、速度、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「帰れソレントへ」にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

「帰れソレントへ」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、歌唱表現の豊かさを感じ取ることができる。

### 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 「帰れソレントへ」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。 <b>技</b> 創意工夫を生かした表現で「帰れソレントへ」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。	<b>思</b> 「帰れソレントへ」の旋律、速度、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「帰れソレントへ」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	<b>態</b> 「帰れソレントへ」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

### 4 音楽科として、全校研究テーマに迫るための仮説

(1) 重点①に関わる仮説

「帰れソレントへ」をイタリア語で聴いたり歌ったりして感じ取ったことを基に、旋律、速度、強弱とその働きの視点で捉え、速度や強弱の変化によって喚起されるイメージと関連付けて、思いや意図を明確にするために、様々に歌い試す展開を位置付ける。このようにすることで「音楽的な見方・考え方」を働かせ、「帰れソレントへ」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌うことができる。

(2) 重点②に関わる仮説

題材の終末、その土地や風土に根差した音楽を聴きながら様々な写真を見比べ、違和感があるものとなないものとの違いは何かを考えた上で、本題材で学んだことを振り返る場を位置付ける。このようにすることで、音楽が人々の営みを含む様々な背景とともに存在することや音楽が多様であることの意味に気付くなど、学んだことの意味や価値を自覚することができる。

### 5 題材展開

全3時間扱い 本時は第2時

段階	◆学習		評価の観点	時間
	教師の指導・支援	予想される生徒の反応		
導入	◆「帰れソレントへ」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもち。		●● 知 態 (観察・ワークシート)！	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>イタリア語での範唱を聴き、曲の印象などを共有し、歌えそうか尋ねる。</li> <li>イタリア語で音読したり歌ったりしながら、言葉の意味や旋律の特徴に注意が向くように促す。</li> <li>対訳を配付し、イタリア語の単語の意味に着目して範唱を聴きながら、旋律のリズムの違いなどによる音楽の特徴と歌詞の内容との関係を、線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 曲想や歌い方から壮大で明るい感じがした。イタリア語の発音や、微妙な速度の変化による抑揚があって難しそうだ。</li> <li>イ 2小節が一まとまりのリズムになっていて、音程を変えて繰り返している。「addio!」は「さようなら!」で「ammore」は「愛」という意味なのか。日本語の歌詞にはない言葉だ。</li> <li>ウ 歌詞からは、「ソレントの美しい風景」と「離別の悲しみ」を感じた。ソレントのことを歌っているところは、同じリズムの繰り返しになっている。それまでのリズムから変わる「Ma nun me lassa」では、こんなに素敵な所なのに愛しい</li> </ul>		

	<p>などで結んで整理するように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウのような反応から、背景となるソレントの写真を提示し、歌う場を設ける。善光寺の写真と比べた時に感じたことを、語り合う場を設ける。</li> <li>ウやエのような反応から、どのようにこの曲を歌っていきたいかを尋ね、<b>題材の学習問題「『帰れソレントへ』にふさわしい表現を創意工夫して歌おう。」</b>を設定する。</li> </ul>	<p>人は行ってしまうことへの思いが溢れ出ている感じがした。</p> <p>エ 写真を見ると、ソレントは海の景色や緑や山が本当にきれいな所だ。ソレントをイメージして歌うと、それっぽく感じるが、善光寺だとイメージが合わない。善光寺でこの曲を歌っていることを想像できない。</p> <p>オ この曲に合うように、美しいソレントの風景をイメージして歌いたい。旋律のリズムが変化するあたりは、「ソレントがこんなに美しい所なのに、あなたは去ってってしまう。」という思いを込めて、切なくも強い思いをフォルテで表現してみたい。</p>			
展開	<p>◆「帰れソレントへ」をどのように歌うかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの歌手がこの曲を歌っていることを紹介し、楽譜と比較しながら言葉や旋律のどこに歌い手による表現の違いが表れているかに着目してパヴァロッチェの演奏を聴き、気付いたことや感じたことを共有する。</li> <li>カのような反応から、「Ma nun me lassa」からの一部分をパヴァロッチェのように歌ってみた後、このような歌い方の違いがある理由を尋ね、今の自分の思いで歌う場を設ける。</li> <li>キのような反応から、<b>学習課題「自分が込めたい思いや表したい情景に合う『速度』や『強弱』を考え、思いや意図を楽譜に書き表そう。」</b>を据え、曲の最後の8小節を中心に追求するように促す。</li> <li>机間指導を行い、思いや意図を楽譜に書き表すことができていない生徒には、他の生徒のワークシートを大型画面に映し、全体で紹介する。</li> <li>楽譜に書き表した思いや意図を、歌い試す場を意図的に設ける。</li> <li>本時の学習を振り返り、どのような思いで歌いたいかと、さらに何に着目して工夫していけばよいかを振り返りカードに書くように促す。</li> </ul>	<p>カ 同じ曲なのに、ここまで歌い方が違い、表現の自由さに驚いた。範唱では、「Ma nun me lassa」の部分で、1語1語をゆっくりはっきりと言っていたが、パヴァロッチェはピアノからフォルテに変化させていたり、急に速度を速くしたりしていた。パヴァロッチェの方が愛しい人への思いを一気に歌う思いを感じた。</p> <p>キ 一緒に歌ってみると、思った以上に強弱が変化していて、速くなるのはついていくのが大変だった。歌い手の思いによって、強弱や速度の表現が変わるのではないかと。愛する人が行ってしまう寂しさを表現するために、どのように強弱や速さを変化させるか考えたい。</p> <p>ク 「Ma nun me lassa」は、楽譜ではフェルマータで、フォルテになっているけど、パヴァロッチェはピアノで歌い始め、自分の中で願っているような柔らかい声で、言葉をつなげて、切ない気持ちを歌い上げている感じがした。私は、主人公は相手に行ってほしくないという気持ちを表すためにパヴァロッチェのように歌いたい。</p> <p>ケ Bさんの楽譜には、「美しい景色を思い浮かべながら」という思いに合わせて、クレッシェンドの記号を強調したり、「悲しい気持ち」の部分で丸で囲んで速く歌うことをメモしたりしていたので、表し方を参考にしよう。</p> <p>コ Cさんは「Ma」をフォルテにして相手に行ってほしくない気持ちを表していた。歌ってみると、その方が思いが伝わる気がする。最後は速度を上げて歌いたい。</p> <p>サ 私は、「愛しい人が美しいソレントを離れてしまう寂しさを表すために、どれほどソレントが美しい所なのかイメージを膨らませ、寂しい気持ちを想像して、それに合う声の響きで歌えるようにしたい。</p>	10分 30分 10分	● <b>思</b> (観察・ワークシート)	2 (本時)
終末	<p>◆創意工夫を生かして「帰れソレントへ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>学習課題「声の響きを意識して、考えた思いや意図を歌おう。」</b>を据える。</li> <li>題材の終末、その土地や風土に根差した音楽を聴きながら、それに関係ある写真と、関係ない写真とを見比べ、違和感を感じるものと感じないものとの違いは何かを考えるように促す。1年時、ソーラン節を歌ったことを想起した後、本題材で学んだことを振り返る場を設ける。</li> </ul>	<p>シ カンツォーネにふさわしい発声を意識したら、自分の思いや歌い方がソレントの雰囲気合うようになったと思う。</p> <p>ス 「帰れソレントへ」は、ソレントの風景を思い浮かべて、そこにいるような気持ちになって歌うと、ソレントの海のように歌に広がりを出せたり、イタリア人の愛情を表現するような抑揚をうまく付けられたりした。ソーラン節は、1年時に学習したように、ニシン漁で精を出して働く人達のことを想像して、漁に活気ができるようにハリのある声で元気よく歌うことが大事だと思う。その土地で生まれた歌や民謡は、その土地の情景や人々の心情が表されているので、そのような見方で歌を捉えたり表現したりしていきたい。</p>	● <b>技</b> (歌唱演奏)	3	